

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号

特開2023-157561

(P2023-157561A)

(43)公開日 令和5年10月26日(2023.10.26)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード(参考)
A 6 1 K 8/92 (2006.01)	A 6 1 K 8/92	4 C 0 8 3
A 6 1 Q 1/14 (2006.01)	A 6 1 Q 1/14	
A 6 1 K 8/86 (2006.01)	A 6 1 K 8/86	
A 6 1 K 8/37 (2006.01)	A 6 1 K 8/37	

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全15頁)

(21)出願番号	特願2022-67546(P2022-67546)	(71)出願人	000000918 花王株式会社 東京都中央区日本橋茅場町1丁目14番 10号
(22)出願日	令和4年4月15日(2022.4.15)	(74)代理人	110000084 弁理士法人アルガ特許事務所
		(72)発明者	坂田 志穂 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 花王株式会社研究所内
		Fターム(参考)	4C083 AA112 AA122 AC011 A C022 AC331 AC352 AC421 A C422 AD022 BB04 BB12 BB13 CC23 DD30 EE06

(54)【発明の名称】 油性クレンジング化粧料

(57)【要約】

【課題】洗い流し後の肌の乾燥感の低減と、洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際のぬるつきのなさを両立した、油性クレンジング化粧料を提供する。

【解決手段】次の成分(A)、(B)、(C)及び(D)：

- (A) 25 で液状の油剤、
- (B) 25 で固形の油剤、
- (C) 非イオン性界面活性剤 1 ~ 10質量%、
- (D) 油ゲル化剤

を含有する油性クレンジング化粧料。

【選択図】なし

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

次の成分 (A)、(B)、(C) 及び (D) :

- (A) 25 で液状の油剤、
- (B) 25 で固形の油剤、
- (C) 非イオン性界面活性剤 1 ~ 10 質量%、
- (D) 油ゲル化剤

を含有する油性クレンジング化粧料。

【請求項 2】

成分 (C) に対する成分 (B) の質量割合 (B) / (C) が、0.05 ~ 1.2 である請求項 1 記載の油性クレンジング化粧料。 10

【請求項 3】

成分 (D) に対する成分 (C) の質量割合 (C) / (D) が、0.1 ~ 1.0 である請求項 1 又は 2 記載の油性クレンジング化粧料。

【請求項 4】

成分 (A) が、炭化水素油及びエステル油から選ばれる 1 種以上を含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか 1 項記載の油性クレンジング化粧料。

【請求項 5】

成分 (C) が、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステルから選ばれる 1 種以上を含む、請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項記載の油性クレンジング化粧料。 20

【請求項 6】

成分 (B) が、炭化水素油、エステル油から選ばれる 1 種以上を含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか 1 項記載の油性クレンジング化粧料。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、油性クレンジング化粧料に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、皮膚の汚れやメイクアップ化粧料を落とす目的で、油性液状クレンジング化粧料が広く使用されている。 30

例えば、特許文献 1 には、ポリグリセリン脂肪酸エステル、油増粘剤、フィトステロールモノ脂肪酸エステルを含有する油性化粧料（オイルクレンジング）が、使用性や、洗い流した後の感触が良好で、経時安定性に優れることが記載されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2020 - 143029 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】 40

【0004】

油性クレンジング化粧料は、油性成分を主成分とするもので、落ちにくいアイメイク、口紅などのメイクアップ化粧料に対する洗浄性能に優れるものの、油性成分が多いため、水での洗い流し性を向上させるために、界面活性剤を多く含有する必要がある。一方で、界面活性剤を多く含有すると、洗い流し後の肌の乾燥感や、洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際にぬるつきを感じるという課題があった。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明者は、特定の油剤と、特定量の非イオン性界面活性剤、油ゲル化剤を組合わせて用いることにより、洗い流し後の肌の乾燥感の低減と、洗い流し後の肌の乾き際のぬるつ 50

きのなさを両立した、油性クレンジング化粧料が得られることを見出した。

【0006】

本発明は、次の成分(A)、(B)、(C)及び(D)：

(A) 25 で液状の油剤、

(B) 25 で固形の油剤、

(C) 非イオン性界面活性剤 1 ~ 10 質量%、

(D) 油ゲル化剤

を含有する油性クレンジング化粧料に関する。

【発明の効果】

【0007】

本発明の油性クレンジング化粧料は、洗浄力に優れるとともに、洗い流し後の肌の乾燥感が低減され、洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際にぬるつかないものである。

【発明を実施するための形態】

【0008】

本発明で用いる成分(A)は、25 で液状の油剤である。液状とは、流動性があることをいい、融点が28 未満のものが含まれる。

成分(A)の油剤としては、例えば、炭化水素油、エステル油、エーテル油、シリコン油、高級脂肪酸等が挙げられる。

【0009】

より具体的には、炭化水素油としては、スクワラン、流動パラフィン、流動イソパラフィン、軽質流動イソパラフィン、重質流動イソパラフィン、 α -オレフィンオリゴマー等が挙げられる。

炭化水素油としては、スクワラン、流動パラフィン、流動イソパラフィン、軽質流動イソパラフィンから選ばれる1種又は2種以上を含むのが好ましく、スクワラン、流動パラフィン、流動イソパラフィンから選ばれる1種又は2種以上を含むのがより好ましく、スクワラン、流動イソパラフィンから選ばれる1種以上を含むのがさらに好ましく、スクワランを含むのがよりさらに好ましい。

【0010】

エステル油としては、モノエステル油、ジエステル油、トリエステル油及びテトラエステル油が挙げられる。

モノエステル油としては、炭素数2 ~ 24の脂肪族又は芳香族のモノカルボン酸又はジカルボン酸のモノエステルが挙げられ、具体例としては、2-エチルヘキサン酸セチル、オクタン酸セチル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソトリデシル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸ミリスチル、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸オクチル、パルミチン酸2-ヘキシルデシルステアリン酸ブチル、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、オレイン酸デシル、イソデシルベンゾエート、メトキシケイヒ酸オクチル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、コハク酸2-エチルヘキシル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、安息香酸アルキル(C12 ~ C15)等が挙げられる。

モノエステル油としては、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソトリデシル、ミリスチン酸オクチルドデシルから選ばれる1種又は2種以上を含むのが好ましく、イソノナン酸イソトリデシル、ミリスチン酸オクチルドデシルから選ばれる1種以上を含むのがより好ましい。

【0011】

ジエステル油としては、炭素数3 ~ 18のジカルボン酸のジエステル、多価アルコールのジ脂肪酸エステル等が挙げられ、具体例としては、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、ジステアリン酸グリコール、ジイソステアリン酸プロピレングリコール、ジイソステアリン酸グリセリル、モノイソステアリン酸モノミリスチン酸グリセリル、ジ2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、コハク酸ジ2-エチル

10

20

30

40

50

ヘキシル、セバシン酸ジイソプロピル、リンゴ酸ジイステアリル、ジ 2 - エチルヘキサン酸エチレングリコール、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸ジ - 2 - ヘプチルウンデシル、セバシン酸ジ - 2 - エチルヘキシル等が挙げられる。

ジエステル油としては、ジカプリル酸プロピレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコールから選ばれる 1 種以上を含むのが好ましく、ジカプリン酸ネオペンチルグリコールを含むのがより好ましい。

【 0 0 1 2 】

トリエステル油としては、3 価以上の多価アルコールのトリ脂肪酸エステルが挙げられ、具体的には、トリミリスチン酸グリセリン、トリスパルミチン酸グリセリン、トリスステアリン酸グリセリン、トリ 2 - ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリエチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリオクタン酸トリメチロールプロパン、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、トリオレイン酸グリセリン、トリ 2 - エチルヘキサン酸グリセリン、トリスステアリン酸グリセリン、さらに、オリーブ油、ホホバ油、マカデミアナッツ油、メドウフォーム油、ヒマシ油、紅花油、ヒマワリ油、アボカド油、キャノーラ油、キョウニン油、米胚芽油、米糠油等の植物油などが挙げられる。

10

トリエステル油としては、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、トリ 2 - エチルヘキサン酸グリセリン、植物油から選ばれる 1 種又は 2 種以上を含むのが好ましく、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、トリ 2 - エチルヘキサン酸グリセリン、オリーブ油、ホホバ油、マカデミアナッツ油から選ばれる 1 種又は 2 種以上を含むのがより好ましく、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、オリーブ油から選ばれる 1 種又は 2 種以上を含むのがさらに好ましく、オリーブ油を含むのがよりさらに好ましい。

20

【 0 0 1 3 】

テトラエステル油としては、4 価以上の多価アルコールのテトラ脂肪酸エステルが挙げられ、具体的には、テトラ(ベヘン酸/安息香酸/エチルヘキサン酸)ペンタエリスリット、テトラエチルヘキサン酸ペンタエリスリット、テトラオクタン酸ペンタエリスリット、テトラ 2 - エチルヘキサン酸ペンタエリスリットが挙げられる。

エステル油としては、ジエステル油、トリエステル油から選ばれる 1 種又は 2 種以上を含むのが好ましく、トリエステル油を含むのがより好ましい。

【 0 0 1 4 】

エーテル油としては、ジアルキルエーテルが挙げられ、具体的には、ジヘキシルエーテル、ジカプリルエーテル、セチル - 1, 3 - ジメチルブチルエーテル等が挙げられる。

30

【 0 0 1 5 】

シリコーン油としては、ジメチルポリシロキサン(1 c s)、ジメチルポリシロキサン(1.5 c s)、ジメチルポリシロキサン(2 c s)、ジメチルポリシロキサン(6 c s)等の揮発性、不揮発性の直鎖状ジメチルポリシロキサン；メチルトリメチコン、トリス(トリメチルシリル)メチルシラン、テトラキス(トリメチルシリル)シラン等の分岐状シロキサン；オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサシロキサン等の環状ジメチルシロキサン、架橋型メチルポリシロキサン、網状型メチルポリシロキサン、ジメチルポリシロキサン、メチルトリメチコン、ジメチルシクロポリシロキサン、ジフェニルシロキシフェニルトリメチコン等のメチルフェニルポリシロキサン、高級アルコール変性オルガノポリシロキサン等が挙げられる。

40

シリコーン油としては、直鎖状ジメチルポリシロキサン、分岐状シロキサンから選ばれる 1 種又は 2 種以上を含むのが好ましく、直鎖状ジメチルポリシロキサンを含むのがより好ましく、不揮発性の直鎖状ジメチルポリシロキサンを含むのがさらに好ましい。

【 0 0 1 6 】

高級脂肪酸としては、オレイン酸、イソステアリン酸、ウンデシレン酸等が挙げられる。

【 0 0 1 7 】

成分(A)の油剤としては、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、

50

洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し後の肌の滑らかさを向上させる観点から、炭化水素油、エステル油から選ばれる1種又は2種以上を含むのが好ましく、炭化水素油、ジエステル油、トリエステル油から選ばれる1種又は2種以上を含むのがより好ましく、炭化水素油、トリエステル油から選ばれる1種又は2種以上を含むのがさらに好ましく、炭化水素油、植物油から選ばれる1種又は2種以上を含むのがよりさらに好ましく、スクワラン、オリーブ油、ホホバ油、マカデミアナッツ油から選ばれる1種又は2種以上を含むのがことさら好ましい。

また、成分(A)としては、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し後の肌の滑らかさを向上させる観点から、炭化水素油及びエステル油を含むのが好ましい。

10

(A1)炭化水素油及び(A2)エステル油を組合わせて用いる場合、その質量割合(A1)/(A2)は、0.1~2であるのが好ましく、0.3~1.5がより好ましく、0.5~1がさらに好ましい。

【0018】

成分(A)は、1種又は2種以上を用いることができ、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させる観点から、含有量は、全組成物中に85~97質量%であるのが好ましく、87~96質量%がより好ましく、89~95質量%がさらに好ましい。

【0019】

本発明で用いる成分(B)は、25で固形の油剤である。

20

成分(B)には、後述の成分(D)油ゲル化剤は含まれない。

25で固形の油剤は、融点28以上であるのが好ましく、30以上がより好ましく、32以上がさらに好ましい。また、融点125以下が好ましく、115以下がより好ましく、105以下がさらに好ましい。なお、本発明において、融点は、医薬部外品原料規格(2006)、一般試験法、融点測定法に記載の第2法により、測定されるものである。

【0020】

成分(B)の油剤として、具体的には、固形パラフィン(融点:50~70)、マイクロクリスタリンワックス(融点:54~102)、セレシン(融点:61~95)、オゾケライト(融点61~90)、ワセリン(融点38~60)、ポリエチレンワックス(融点:103~120)、フィッシュートロブシュワックス(融点108~120)等の炭化水素;カルナウバロウ(融点:80~86)、ミツロウ(融点:64)、キャンデリラロウ(融点:68~72)、コメヌカロウ(融点:70~83)、ジョジョバロウ(融点:55)、モクロウ(融点:55)、ホホバ脂(融点:46~54)、ラノリン(融点37~43)、水添ホホバ油(融点:68)、硬化ヒマシ油(融点:84)、水添パーム油(融点:65)、硬化ヤシ油(融点:70)、パルミチン酸セチル(融点:50)、ベヘン酸エイコサン二酸グリセリル(融点:66)、トリステアリン、トリベヘニン、シア脂(融点:36~45)、ダイマージリノール酸(フィトステリル/イソステアリル/セチル/ステアリル/ベヘニル)(融点:38)、トリ(カプリル/カプリン/ミリスチン/ステアリン酸)グリセリル(融点:40)、ラウリン酸硬化ヒマシ油(融点:51)、イソステアリン酸硬化ヒマシ油(融点:47)、モノヒドロキシステアリン酸硬化ヒマシ油(融点:55~63)等のエステル油;パチルアルコール(融点:60~70)、キミルアルコール(融点:60.5~61.5)等のエーテル油;ステアリルアルコール(融点:58.0)、ベヘニルアルコール(融点:70.5)等の高級アルコール;パルミチン酸、ステアリン酸等の高級脂肪酸などが挙げられる。

30

40

【0021】

成分(B)としては、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の滑らかさを向上させる観点から、炭化水素油、エステル油から選ばれる1種以上を含むのが好ましく、ワセリン、シア脂、ダイマージリノール酸(フィトステリル/イソステアリル/セチ

50

ル/ステアリル/ベヘニル)、トリ(カプリル/カプリン/ミリスチン/ステアリン酸)グリセリルから選ばれる1種又は2種以上を含むのがより好ましく、シア脂、トリ(カプリル/カプリン/ミリスチン/ステアリン酸)グリセリルから選ばれる1種以上を含むのがさらに好ましく、トリ(カプリル/カプリン/ミリスチン/ステアリン酸)グリセリルを含むのがよりさらに好ましい。

【0022】

成分(B)は、1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させる観点から、含有量は、全組成中に0.1~4質量%であるのが好ましく、0.3~2質量%がより好ましく、0.7~1.3質量%がさらに好ましい。

10

【0023】

成分(C)の非イオン性界面活性剤としては、通常の化粧品に用いられるもので、例えば、モノステアリン酸ソルビタン等のソルビタン脂肪酸エステル;グリセリン脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸ポリグリセリル等のポリグリセリン脂肪酸エステル;プロピレングリコール脂肪酸エステル、モノラウリン酸ポリエチレングリコール等のポリオキシエチレン脂肪酸エステル;ショ糖脂肪酸エステル;モノステアリン酸ポリオキシエチレンソルビタン、ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート、ポリオキシエチレンヤシ油脂肪酸ソルビタンなどのポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル;ポリオキシエチレンアルキルエーテル;ポリオキシエチレンソルビトール脂肪酸エステル;ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステル;ポリオキシエチレンプロピレングリコール脂肪酸エステル;ポリオキシエチレンヒマシ油;ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油;ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油脂肪酸エステル;アルキルポリグルコシド;ポリオキシエチレン・メチルポリシロキサン共重合体等のポリオキシアルキレン変性シリコーン等が挙げられる。

20

これらの非イオン性界面活性剤のうち、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し時のすすぎの速さを向上させる観点から、ポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステルが好ましい。

【0024】

ポリオキシエチレングリセリル脂肪酸エステルとしては、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し時のすすぎの速さを向上させ、保存安定性を向上させる観点から、常温で液状ないしペースト状を呈するものが好ましい。

30

ポリオキシエチレングリセリル脂肪酸エステルは、ポリオキシエチレングリセリルエーテルと脂肪酸から得られるエステルであり、エステル化度によりモノエステル体、ジエステル体、トリエステル体の3種類が得られる。脂肪酸としては、炭素数14~22の飽和若しくは不飽和の、直鎖若しくは分岐鎖の脂肪酸が用いられ、炭素数16~20の飽和脂肪酸が好ましく、炭素数16~20の飽和分岐鎖脂肪酸がより好ましい。

ポリオキシエチレン(以下、POEと略す場合がある。)の付加モル数は、エステル化度により異なり、例えば、モノエステル体であれば5~15モル、ジエステル体であれば10~30モル、トリエステル体であれば15~50モルが好ましい。

また、親水性と親油性のバランスの指標であるHLB値は、8~20が好ましく、9~18がより好ましく、10~15がさらに好ましく、10.5~12がよりさらに好ましい。なお、ここでHLB値とは、グリフィン(Griffin)の式(J,Soc,Cosmet,Chem.,1,311(1949);5,249(1953))により計算されるものを意味する。

40

また、2種以上の非イオン性界面活性剤から構成される場合、混合界面活性剤のHLBは、次のようにして求められる。混合界面活性剤のHLBは、各非イオン性界面活性剤のHLB値をその配合比率に基づいて相加算平均したものである。

$$\text{混合HLB} = (\text{HLB}_x \times W_x) / W_x$$

HLB_xは、非イオン性界面活性剤XのHLB値を示す。

W_xは、HLB_xの値を有する非イオン性界面活性剤Xの質量(g)を示す。

【0025】

50

成分(C)として、具体的には、POEグリセリルモノイソステアリン酸エステル(5EO)(HLB8)、POEグリセリルモノイソステアリン酸エステル(6EO)(HLB8)、POEグリセリルモノイソステアリン酸エステル(8EO)(HLB10)、POEグリセリルモノイソステアリン酸エステル(10EO)(HLB12)、POEグリセリルモノイソステアリン酸エステル(15EO)(HLB12)、POEグリセリルジイソステアリン酸エステル(20EO)(HLB10)、POEグリセリルジイソステアリン酸エステル(30EO)(HLB12)、POEグリセリルトリイソステアリン酸エステル(20EO)(HLB10.9)、POEグリセリルトリステアリン酸エステル(20EO)(HLB8)、POEグリセリルトリイソステアリン酸エステル(30EO)(HLB10)、POEグリセリルトリイソステアリン酸エステル(40EO)(HLB11)、POEグリセリルトリイソステアリン酸エステル(50EO)(HLB12)等が挙げられる。

10

【0026】

これらのうち、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し後の肌の滑らかさを向上させる観点から、脂肪酸が炭素数14~22の脂肪酸であって、POE付加モル数が5~50の範囲にあるポリオキシエチレングリセリル脂肪酸エステルが好ましく、脂肪酸が炭素数16~20の飽和脂肪酸であって、POE付加モル数が5~50の範囲にあるポリオキシエチレングリセリル脂肪酸エステルがより好ましく、脂肪酸が炭素数16~20の飽和分岐鎖脂肪酸であって、POE付加モル数が15~50の範囲にあるポリオキシエチレングリセリルトリ脂肪酸エステルがさらに好ましい。

20

このようなポリオキシエチレングリセリル脂肪酸エステルとしては、POEグリセリルトリイソステアリン酸エステル(20EO)が挙げられ、市販品としては、MファインオイルISG-20T(ミヨシ油脂社製)、EMALEXGWIS-320(日本エマルジョン社製)等を用いることができる。

【0027】

成分(C)は、1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させる観点から、含有量は、全組成中に1~10質量%であり、1.5~8質量%が好ましく、2.5~4.5質量%がよりに好ましい。

30

【0028】

本発明において、成分(C)に対する成分(B)の質量割合(B)/(C)は、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、洗い流し後の肌の滑らかさを向上させる観点から、0.05~1.2であるのが好ましく、0.1~0.8がより好ましく、0.25~0.42がさらに好ましい。

【0029】

成分(D)の油ゲル化剤としては、通常の化粧品に用いられるもので、グリセリン脂肪酸エステルエイコサン二酸縮合物、デキストリン脂肪酸エステルが好ましい。

なお、成分(D)には、前述の成分(B)25で固形の油剤は含まれない。

40

グリセリン脂肪酸エステルエイコサン二酸縮合物は、脂肪酸とエイコサン二酸とグリセリンとから合成されるオリゴマーエステルであり、油性クレンジング化粧品に適度な粘性を付与し、製剤の顔等への塗布を容易とし、使用性を向上させることができる。また、洗い流し後の肌にしっとりとした感触を付与する。

脂肪酸としては、炭素数8~30の直鎖又は分岐鎖の、飽和若又は不飽和の脂肪酸が挙げられ、炭素数12~26の脂肪酸が好ましく、炭素数14~24の脂肪酸がより好ましく、炭素数16~22の脂肪酸がさらに好ましい。具体的には、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、イソステアリン酸、ベヘン酸、2-エチルヘキサン酸、オレイン酸等が挙げられ、ベヘン酸が好ましい。

【0030】

50

グリセリン脂肪酸エステルエイコサン二酸縮合物は、グリセリンと上記の脂肪酸から選ばれる1種又は2種以上とエイコサン二酸を、公知の方法によりオリゴエステル化反応させることにより得ることができる。

また、(ベヘン酸/エイコサン二酸)グリセリル(商品名:ノムコートHK-G、日清オイリオ社製)、トリ(ベヘン酸/イソステアリン酸/エイコサン二酸)グリセリル(商品名:ノムコートSG、日清オイリオ社製)等の市販品を好適に用いることができる。

【0031】

また、デキストリン脂肪酸エステルとしては、通常の化粧品に用いられるもので、炭素数8~24の脂肪酸とデキストリンのエステルが好ましく、炭素数14~20の脂肪酸とデキストリンのエステルがより好ましい。また、デキストリンの平均重合度が3~150

10

であるのが好ましい。
具体的には、パルミチン酸デキストリン、ステアリン酸デキストリン、パルミチン酸・ステアリン酸デキストリン、オレイン酸デキストリン、イソパルミチン酸デキストリン、イソステアリン酸デキストリン、ミリスチン酸デキストリン、パルミチン酸・2-エチルヘキサン酸デキストリン等が挙げられる。

また、レオパールKE2、レオパールKL2、レオパールMKL2、レオパールTL2、レオパールTT2(いずれも千葉製粉社製)等の市販品を用いることができる。

【0032】

成分(D)としては、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、配合時の扱いやすさの観点から

20

グリセリン脂肪酸エステルエイコサン二酸縮合物を含むのが好ましく、グリセリン/ベヘン酸/エイコサン二酸縮合物を含むのがより好ましい。
また、(D1)(ベヘン酸/エイコサン二酸)グリセリル、及び(D2)トリ(ベヘン酸/イソステアリン酸/エイコサン二酸)グリセリルを組合わせて用いるのが好ましく、成分(D2)に対する成分(D1)の質量割合(D1)/(D2)が、0.1~2であるのが好ましく、0.4~1.2がより好ましく、0.6~1がさらに好ましい。

【0033】

成分(D)は、1種又は2種以上を組合わせて用いることができ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、保存安定性を向上させる観点から、含有量は、全組成中に0.5~3質量%であるのが好ましく

30

、0.8~2.5質量%がより好ましく、1.4~2質量%がさらに好ましい。

【0034】

本発明において、成分(D)に対する成分(C)の質量割合(C)/(D)は、洗浄力を向上させ、洗い流し後の肌の乾燥感を低減させ、洗い流し後の肌の濡れた状態で触った際のぬるつきを低減させ、保存安定性を向上させる観点から、0.1~10であるのが好ましく、0.8~5がより好ましく、1.5~2.4がさらに好ましい。

【0035】

本発明の油性クレンジング化粧品は、外観を分離なく均一にし、保存安定性を向上させる観点から、多価アルコールの含有量が、全組成中に0.5質量%以下であるのが好ましく、0.3質量%以下がより好ましく、0.1質量%以下がさらに好ましい。

40

また、本発明の油性クレンジング化粧品は、外観を分離なく均一にし、保存安定性を向上させる観点から、水を含むことができる。水の含有量は、全組成中に1.5質量%以下であるのが好ましく、1質量%以下がより好ましく、0.5質量%以下がさらに好ましく、0.1質量%以下がよりさらに好ましい。

本発明の油性クレンジング化粧品は、前記成分以外に、通常の化粧品に用いられる成分、例えば、成分(A)及び(B)以外の油性成分、成分(C)以外の界面活性剤、高分子化合物、紫外線吸収剤、酸化防止剤、香料、殺菌剤、防腐剤、防汚剤等を含むことができる。

【0036】

本発明の油性クレンジング化粧品は、通常の方法により、製造することができ、油性液

50

状クレンジング化粧料とするのが好ましい。

ここで、油性とは、油性成分の均一系であることをいう。また、液状とは、25 において流動性を有していることをいい、手指に取ったときの垂れ落ちが少なく、目部位への塗布が容易となる観点から、25 における粘度が300～7000 mPa・sであるのが好ましく、500～5000 mPa・sがより好ましい。粘度は、25 において、B型粘度計でローターNo. 3を用いて測定したものである。

【0037】

本発明の油性クレンジング化粧料は、顔、手、足などに塗布してマッサージした後、洗い流すことによって、皮膚の汚れやメイクアップ化粧料を落とすために使用される。メイクアップ化粧料の除去用として好適である。

10

【実施例】

【0038】

実施例1～8、比較例1

表1に示す組成の油性液状クレンジング化粧料を製造し、アイライナーに対する洗浄力、ファンデーションに対する洗浄力、洗い流し後の肌の乾燥感、洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際のぬるつかない感じを評価した。結果を表1に併せて示す。

【0039】

(製造方法)

(1)成分(A)及び成分(C)を25 で均一混合した。

(2)(1)で得られた混合物を80 まで加熱し、成分(B)及び(D)を添加し、均一に混合した。

20

(3)(2)で得られた混合物を、攪拌しながら25 まで冷却し、脱泡して、油性液状クレンジング化粧料を得た。

【0040】

(評価方法)

(1)アイライナーに対する洗浄力：

バイオスキンプレート(品番P001-001WHITE、ビューラックス社製)に、アイライナー(ジェルアイライナー、カネボウ社製)を長さ4cm、幅0.2cmの大きさに塗布し、1時間乾燥させた。各油性液状クレンジング化粧料1mLをアイライナーに塗布し、30秒間一定の力でなじませた後、流水ですすいだ。アイライナーの落ち具合を以下の5段階で目視評価した。なお、評価は1名で行った。

30

5：非常に良好。

4：良好。

3：やや良好。

2：不良。

1：明らかに不良。

【0041】

(2)ファンデーションに対する洗浄力：

バイオスキンプレート(品番P001-001WHITE、ビューラックス社製)に、ファンデーション(ルナソル ライトスプレッド クリーミィリクイド(商品名)、カネボウ社製)を長さ4cm、幅1cmの大きさに塗布し、1時間乾燥させた。各油性液状クレンジング化粧料1mLをファンデーションに塗布し、30秒間一定の力でなじませた後、流水ですすいだ。ファンデーションの落ち具合を以下の5段階で目視評価した。なお、評価は1名で行った。

40

5：非常に良好。

4：良好。

3：やや良好。

2：不良。

1：明らかに不良。

【0042】

50

(3) 洗い流し後の肌の乾燥感 :

化粧品評価専門パネラー 3 名により、各油性液状クレンジング化粧料 1 m L を手の甲に塗布し、なじませた後、水で洗い流した後の肌の乾燥感について、下記基準に基づき 5 段階で評価した。結果を、3 名の合計点で示した。

- 5 : 乾燥感が明らかにない。
- 4 : 乾燥感がない。
- 3 : 乾燥感があまりない。
- 2 : 乾燥感がややある。
- 1 : 乾燥感が明らかにある。

【 0 0 4 3 】

10

(4) 洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際のぬるつかない感じ :

化粧品評価専門パネラー 3 名により、各油性液状クレンジング化粧料 1 m L を手の甲に塗布し、なじませた後、水で洗い流した後の肌が濡れた状態で触った際のぬるつかない感じを、下記基準に基づき 5 段階で評価した。結果を、3 名の合計点で示した。

なお、洗い流し後の肌の乾き際のぬるつかない感じとは、流水で手の甲についた油性液状クレンジング化粧料を洗い流した後、流水を止め、水が付いた状態の手の甲をもう一方の手の指で擦った時に、油性液状クレンジング化粧料の油分が残っていない感じを示す。

- 5 : 明らかにぬるつかない。
- 4 : ぬるつかない。
- 3 : ほとんどぬるつかない。
- 2 : ややぬるつく。
- 1 : あきらかにぬるつく。

【 0 0 4 4 】

20

30

40

50

【表 1】

成分(質量%)		実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5	実施例6	実施例7	実施例8	比較例1
A	シュガースクワラン * 1	30	30	30	30	30	30	30	30	30
	オリーブ油 * 2	34.2	34.7	33.7	35.2	31.2	35	33.8	34.5	25.2
	ホホバ油 * 3	15	15	15	15	15	15	15	15	15
	マカデミアナッツ油 * 4	15	15	15	15	15	15	15	15	15
B	トリ(カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリセリル * 5	1	0.5	1.5	1	1	1	1	1	1
	トリスステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル * 6	3	3	3	2	6	3	3	3	12
D	D1	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.44	0.98	1.5	0.8
	D2	1	1	1	1	1	0.56	1.22		1
合計		100	100	100	100	100	100	100	100	100
(A)総量		94.2	94.7	93.7	95.2	91.2	95	93.8	94.5	85.2
(B)総量		1	0.5	1.5	1	1	1	1	1	1
(C)総量		3	3	3	2	6	3	3	3	12
(D)総量		1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1	2.2	1.5	1.8
(B)/(C)		0.33	0.17	0.50	0.50	0.17	0.33	0.33	0.33	0.08
(C)/(D)		1.67	1.67	1.67	1.11	3.33	3.00	1.36	2.00	6.67
(D1)/(D2)		0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.79	0.80	-	0.80
アイライナーに対する洗浄力		5	5	5	5	5	5	5	5	5
ファンデーションに対する洗浄力		5	5	4	5	5	5	4	5	5
洗い流し後の肌の乾燥感		15	13	15	12	11	12	13	12	5
洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際のぬるつかない感じ		15	10	10	11	13	12	10	10	6

10

20

30

40

【 0 0 4 5 】

* 1 シュガースクワラン： N I K K O L シュガースクワラン（日本サーファクタント工業社製）、

* 2 オリーブ油：クロピュア O L - L Q - (J P)（クローダジャパン社製）、

* 3 ホホバ油：精製ホホバ油（香栄興業社製）、

* 4 マカデミアナッツ油：精製マカデミア油（日油社製）、

* 5 トリ(カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリセリル：サラコス 3 3 4（日清オイリオグループ社製）、

* 6 トリスステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル：Mファインオイル I S G

50

- 20 T (ミヨシ油脂社製)、

* 7 グリセリン・ベヘン酸・エイコサン二酸縮合物：ノムコート HK - G (日清オイリオグループ社製)、

* 8 トリ (ベヘン酸 / イソステアリン酸 / エイコサン二酸) グリセリル：ノムコート SG (日清オイリオグループ社製)

【 0 0 4 6 】

処方例 1 ~ 3

実施例 1 ~ 8 と同様にして、表 2 ~ 表 4 に示す組成の油性液状クレンジング化粧料を製造した。

表 2 ~ 表 4 に示す組成の油性液状クレンジング化粧料はいずれも、アイライナーに対する洗浄力、ファンデーションに対する洗浄力に優れ、洗い流し後の肌の乾燥感が低減され、洗い流し後の肌が濡れた状態で触った際にぬるつかないものである。

【 0 0 4 7 】

10

20

30

40

50

【表 2】

成分	質量%
オリブ油 * 2	24.7
ホホバ油 * 3	10
マカデミアナッツ油 * 4	10
シュガースクワラン * 1	25
トリスステアリン酸グリセリル	10
ミリスチン酸オクチルドデシル	10
ヒマシ油	1
トリスステアリン酸ジグリセリル	1
イソステアリン酸イソステアリル	1
トリスステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル (20EO) * 6	3
トリ(カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリ セリル * 5	1
グリセリン・ベヘン酸・エイコサン二酸縮合物 * 7	1
トリ(ベヘン酸／イソステアリン酸／エイコサン二酸) グリセリル * 8	1
油溶性カロットエキス	0.1
シソエキス(1)・植物性スクワラン混合液	0.1
ローズヒップ油	0.1
オレンジ油	0.1
ラベンダー油	0.1
シア脂	0.1
ブドウ種子油	0.1
ヒマワリ油(2)	0.1
月見草油	0.1
アボカド油	0.1
アルモンド油	0.1
香料	0.2
合計	100

10

20

30

40

【 0 0 4 8 】

50

【表 3】

成分	質量%
流動パラフィン	50.48
トリ2-エチルヘキサン酸グリセリル	25
ミリスチン酸オクチルドデシル	5
ミリスチン酸2-ヘキシルデシル	10
トリスステアリン酸ジグリセリル	1
トリスステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル (20EO) * 6	3
トリ(カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリ セリル * 5	1
グリセリン・ベヘン酸・エイコサン二酸縮合物 * 7	1
トリ(ベヘン酸／イソステアリン酸／エイコサン二酸) グリセリル * 8	1
水	1
オリブ油 * 2	0.1
ホホバ油 * 3	0.1
マカデミアナッツ油 * 4	0.1
油溶性カロットエキス	0.1
シソエキス(1)・植物性スクワラン混合液	0.01
ローズヒップ油	0.1
オレンジ油	0.1
ラベンダー油	0.1
シア脂	0.01
ブドウ種子油	0.1
ヒマワリ油(2)	0.1
月見草油	0.1
アボカド油	0.1
アルモンド油	0.1
香料	0.3
合計	100

10

20

30

40

【 0 0 4 9 】

50

【表 4】

成分	質量%
α -オレフィンオリゴマー	39.88
オリブ油 * 2	10
ミリスチン酸2-ヘキシルデシル	10
ミリスチン酸オクチルドデシル	10
トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリル	10
ホホバ油 * 3	5
マカデミアナッツ油 * 4	5
トリスステアリン酸ジグリセリル	1
トリスステアリン酸ポリオキシエチレングリセリル (20EO) * 6	4
トリ(カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリセリル * 5	1
グリセリン・ベヘン酸・エイコサン二酸縮合物 * 7	1
トリ(ベヘン酸/イソステアリン酸/エイコサン二酸)グリセリル * 8	1
水	1
油溶性カロットエキス	0.1
シソエキス(1)・植物性スクワラン混合液	0.01
ローズヒップ油	0.1
オレンジ油	0.1
ラベンダー油	0.1
シア脂	0.01
ブドウ種子油	0.1
ヒマワリ油(2)	0.1
月見草油	0.1
アボカド油	0.1
アルモンド油	0.1
香料	0.2
合計	100

10

20

30

40

50